

2. 卵巣粘液性腫瘍 - The mystery-

清川貴子 先生(千葉大学大学院医学研究院病態病理学)

粘液性腫瘍は、細胞質内に粘液を有する高円柱上皮（以下粘液性上皮）の増生からなる表層上皮間質性腫瘍で、卵巣腫瘍全体の10-15%を占める。細胞異型、構造異型、間質浸潤の有無によって、良性(80%)、境界悪性(10%)、悪性(10%)に分けられる。本腫瘍は以下の特徴を有する“mysterious な腫瘍”である。今回は、これらの特徴と診断のポイントについて述べる。

(1) 2つの亜型

腫瘍細胞の形態から腸型と内頸部様(Müller管型)の2つに分けられ、腸型が圧倒的多数を占める。境界悪性腫瘍では、2者は異なる臨床病理学的特徴を示すことから、診断時に亜分類を行う必要がある。

(2) 腫瘍のHeterogeneity

腸型粘液性腫瘍では、良性、境界悪性、悪性成分が混在することが多く、腺腫-癌シーケンス説が成り立つと考えられる。従って、十分かつ適切な標本採取と厳密な診断基準に基づいた診断が重要であり、術中迅速診断時に認めた病変が境界悪性腫瘍であっても、術後の詳細な切出しにより粘液性腺癌が見つかる可能性がある。術中診断時には“少なくとも境界悪性腫瘍”という表現が適切である。

(3) 間質浸潤の2つの型

粘液性腺癌とは間質浸潤を示す粘液性腫瘍であるが、浸潤の形態には拡大性浸潤（圧排性ないし癒合性浸潤）と侵入性浸潤の2つがあり、前者の頻度が圧倒的に高い。拡大性浸潤とは、高度の異型を示す腺管がほとんど間質の介在を伴わずに、背中合わせ配列、癒合性、篩状構造、複雑に入り組んだ腺管構造や乳頭状構造を呈して増生する領域が長軸3mmないし面積10mm²以上の広がりを示すものを指す。侵入性浸潤とは、腫瘍細胞が不整な形の腺管や小胞巣を形成、または孤立性に方向性を欠いて間質内に不規則に増生する。

(4) 若年者に低分化腺癌が発生することがある

(5) 壁在結節を伴う粘液性腫瘍がある

(6) 転移性腫瘍との鑑別が困難な例、腹膜偽粘液腫との関係

転移性腫瘍の中には、一見良性ないし境界悪性腫瘍と見紛う像を呈することやこれらと浸潤像の混在を認めることがある。また、従来、腹膜偽粘液腫卵巣粘液性腫瘍の腹膜播種と考えられてきたが、近年、そのほとんどは虫垂原発低悪性粘液性腫瘍の腹膜播種であること、卵巣の粘液性腫瘍は転移巣であること、虫垂の腫瘍は肉眼的に不明瞭な例があることが指摘されている。